

ふれ愛にのうち



第4号

太田西ノ内病院広報誌・第4号

発行／財太田総合病院附属太田西ノ内病院

編集／太田西ノ内病院広報委員会

発行日／平成13年7月20日

住所／郡山市西ノ内2丁目5番20号 TEL (024) 925-1188

ホームページ：http://www.ohita-hp.or.jp/

患者の立場になった医療を

財団法人太田総合病院常任理事

前(財)太田総合病院副理事長

前太田西ノ内病院病院長

稲田 豊

私は外科にいた頃、病歴掛として私より上の医局員にも退院後3ヵ月以内に提出するように遠慮なく催促したものである。病歴は患者さんは勿論、医師にとっても非常に重要なものである。如何なる治療を行ったかを明らかにするものは病歴及びX線写真などの画像である。裁判になった場合、自分が正しい治療をしていた事を立証する証拠は前記のものしかない。私は、1日に2回、即ち、朝(手術創のガーゼ交換や輸液などを行う)と夕方に病室を訪れて患者さんと話をする事にして、いたが、女子病室では患者さん当たりの会話時間は等しくなるように留意した。女子は嫉妬心が強いのである。

世界医師会の「患者の権利に関するリスボン宣言」を見ると、原則1には、全ての人は差別なく適切な医療を受ける権利を有する。常に自分にとって最善の治療を受ける事が出来、適用される治療法は広く承認されている医療原則に即したものでなければならぬ。などと記述してある。最近では患者の立場になった医療が重要視されており、医療関係者は毎日の診療行為の際には特に留意しなければならぬ。柳田は、機械医療が進み過ぎたあまり、医者の目が、病気の直接的な治療(キュア)にばかり集中し、人間の心と行き方までも考慮に入れた癒し(ケア、ヒーリング)を忘れてしまっているのではないかと警告している。大坂の淀川キリスト教病院精神科医長柏木哲夫医師も、「医師はキュアの可能性が無いと分かると、途端に興味が失い、患者が必要とするケア(看護、配慮)を与えようとしない。寧ろキュア出来ないから、ケアの必要がある」と書いている。医療に従事している我々が常に心すべき大事な事である。



手術室にて

大正15年12月7日 東京に生まれる
昭和24年3月 東京大学医学部卒業
昭和25年6月 同 第二外科学教室入局
昭和32年1月 同 麻酔学教室助教授
昭和39年2月 昭和医科大学麻酔学教室教授
昭和55年7月 東京大学医学部麻酔学教室教授
昭和62年4月 太田総合病院副理事長
平成1年9月 太田西ノ内病院病院長
平成12年3月 同 病院長辞任
平成13年6月現在 常任理事

医療事故防止対策は既に策定されているが、残念ながらミスの報告は皆無にならない。国立病院の或医師は圧倒的に多いのは「うっかりミス」であると言っている。医療行為を行う度に確認しない事が原因と考えている。医療訴訟の件数は年々増加し、又、今迄は3割程度であった患者側の勝訴率が平成10年には49%迄上昇している。更に、医師賠償責任保険の限度額である1億円を超える支払いを命じる判決も珍しくなくなっている。

診療科紹介

血液内科

「血液内科」は、院内標榜科名で、院外には「内科」に属し、リンパ・造血器疾患を中心に診療を行っております。血液疾患は、その病気の性格上、種々の合併症を引き起こして来る可能性があります。そのため、優秀な他診療科を有する総合病院の中の血液内科と言う事に大きな意義があります。それでは、私達の「血液内科」を紹介いたします。

(1)どんな病気を診る科か

血液は、血球成分と血漿成分により出来ています。血球成分には、赤血球、白血球、血小板があります。血液疾患には、各血球成分が単独で異常を来す病気から、複数の血球成分に異常を来す病気まであります。血漿成分には、いろんな種類の蛋白質があり、血液疾患では、これらの蛋白質のうち、グロブリンや凝固因子と言ったものに異常を来す疾患があります。具体的に、各々を代表する病名を紹介しましょう。鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、急性（骨髄性、リンパ性）白血病、慢性骨髄増殖性疾患、慢性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、血友病などを挙げる事ができます。また、全身のリンパ節が腫れて来る悪性リンパ腫も、血液疾患の代表に挙げられます。その他、造血機能に異常を来すいろいろな疾患（ウイルス感染症、薬剤性など）があります。特に人の寿命の延長に伴い、



田中鉄五郎 永田 兼司
松田 信 斎藤由理恵 神林 裕行

高齢者の悪性リンパ腫や多発性骨髄腫は、年々増加傾向にあります。一部の病気を除き、血液疾患に共通することは、重篤な病気が多く、なかなか治らない、長期間の治療が必要であると言う事です。年層層は、10歳代から80歳代まで、幅広い年齢層を構成しています。

(2)血液内科病棟の概要

血液内科は、病棟診療に重点がおかれます。現在、スタッフの数は、医師5名、看護婦24名、看護助手3名、ヘルパー1名です。病床数は48床（一般41床、クリーンルーム7床）がありますが、入院患者数は、常に50人以上います。必然的に、他の病棟のベッドを借りる事になります。クリーンルームでは、主に急性白血物の

患者さんの化学療法（寛解導入療法）と、自己末梢血幹細胞移植を行っています。一施設での血液疾患の患者さんの数としては、全国的にも異例な程の多い数です。

(3)血液内科の外来診療

月曜日から金曜日までの、午前もしくは午後診療を行っております。一日平均20人、一カ月平均500人の患者さんが受診されます。患者さんの数は、年々増加傾向にあります。県中県南を中心に、遠方よりの患者さんも多数いらっしゃいます。患者さん一人に要する診療時間が比較的長い為、待ち時間が長くなってしまうご迷惑をお掛けしております。

(4)血液内科診療のモットー

入院患者さんの多くは、重篤な疾患の方達です。入院期間が長く、治療内容も厳しく、身体的な苦痛、精神的な苦痛は、健康な人々には計り知れない物があります。そこで、患者さんの診療にあたっては、病棟スタッフ全員で協力しあい、精神的ケアも含め細心の注意を払うようにしています。特に、医療ミス（輸血ミス、薬剤投与ミスなど）については、2重3重のチェックを実施し、その可能性を極力少なくするように努力しています。患者さん、家族との信頼関係は、長丁場の治療をスムーズに実施するにあたっては、非常に重要です。説明と同意にかけ時間は、できるだけ十分に取るようにしています。治療方法についても、EBM (Evidence Based Medicine) を常に意識するようにしています。治療結果を出す事は、最大の努力目標であります。患者さんの納得する医療を提供できればと考えています。

(5)血液内科の将来に向けて

福島県の血液疾患治療における中核病院としての自覚を持って、常に診療レベルを向上させ、患者さんと家族の納得のできる医療を提供し、信頼されることを目標にしています。説明と同意における質の高い情報の提供と、EBMに基づく治療を基礎とし、特に血液学分野でのその進歩が著しい、特異的分子標的治療、Cell-based therapyへの展開を意識していきたいと思います。前者においては、急性前骨髄球性白血病のレチノイン酸による分化誘導療法が現実のものとなり、高い有効率を挙げられています。後者においては、現在実施している末梢血幹細胞移植を、自己から同種へ拡大していくことを考えています。また、将来に向けて改善しなければいけない点として、急性期医療に対するニーズに迅速に対応するため、慢性期医療を緊密な病診・病病連携を実現することによって分担しあい、限られたパワーを有効に使う事が重要であると考えています。最後に、私達と共に血液疾患の診療を担うスタッフを募集します。若者を来れ！血液内科病棟をやりがいのある楽しい病棟に行きましょう。



7病棟スタッフとともに

西ノ内見聞録

ここでは、西ノ内病院の各病棟・外来・その他さまざまな部署に潜入し、その全容にせまってみてみたいと思います。

5病棟



5病棟スタッフ

笑顔と思いやりの心で

私達の5病棟は2号館中央棟の5階にあり、広々としたホールと明るい病室が自慢です。眺めが良く、南側には郡山の町並みが見渡せ、夕日とても綺麗に眺めることができます。5病棟は主に、食道・胃・腸・肝臓・脾臓・胆のうなど、消化器疾患の病棟で急性期から慢性期、そして検査目的とさまざまな患者さんが入院しております。病診連携での入院も多く、紹介された開業医の先生が回診に来られることもあり、患者さんはとても安心されるようです。

病棟の看護体制は、受け持ち体制をとっており、入院から退院まで同じ看護婦

が、一人ひとりの患者さんに合った看護を提供すべく、責任を持ってお世話させていただいております。入院患者さんの中で、検査後、手術を受けるために外科病棟へ移られる方も多いです。何日後に「手術が終わって食事が出たんです」、「今日、退院できることになりました」、「と笑顔を見せてくれる患者さんが多く、元気に、回復されていくお姿を見ることができ、いつも嬉しく思っています。また、四季折々に七夕会、クリスマス会などレクリエーションを催し、患者さん方に喜んでいただいております。

5病棟は美男、美女の5人の医師と笑顔がモットーの31名のスタッフで、思いやりの心を大切に、何よりも患者さんが安心して入院生活を送れるよう援助しております。患者さんとご家族の方々に、



ミーティングの様子

眼科外来



眼科外来スタッフ

5病棟に入院して良かったと心から思っていただけるよう、日夜努力いたしております。

(宗像宏子)

スタッフの連携で よりよい診療を

眼科外来は、眼球・眼瞼・視神経などの眼窩部に関する疾患を診療しております。視え方の異常・全身疾患による眼底変化から眼鏡・コンタクトレンズ処方まで、又、患者層も0才児の未熟児網膜症から90才位の方まで幅広く来院されています。

スタッフも医師・看護婦・視能訓練士など職種が多く、連携プレーで仕事をし

ています。

診察の流れは、最初に視能訓練士が疾患に応じて様々な検査をします。次に、そのデータに基づき医師が診察をします。多くの患者様は、散瞳により眼底検査を行ないます。散瞳とは、点眼をし瞳孔を散大することです。散瞳により3〜4時間位手元が見づらく眩しくなりますが、全身疾患を見つけることができる大事な検査となります。

患者数は、一日130〜250人（入院患者含）と多く、散瞳時間を合わせる待ち時間が長くなりますが、診療がスムーズにいく様工夫を重ねております。平成10年より白内障手術は、入院せず、日帰りで行なうようになり、多くの方が手術を受けております。御希望の方は、遠慮なく御相談下さい。

来院患者様が安心して診療・手術を受けて頂く為、日々努力をし、「笑顔と思いやり」「お疲れさまでした」の言葉を忘れずに携わり、ライフサポートができる様にしてゆきたいと思っております。

(松本英子)



高度な検査も常時可能

くすりの広場④

「入院調剤室から」



薬剤部入院調剤室は本館二階、ホール正面エスカレーターを上るとすぐ隣、あまり目立たない場所にあり、ここで入院患者様の内服薬や外用薬などの調剤をすべて行っております。スタッフは薬剤師12名、薬剤助手2名で構成されており、主に午前中は定時薬の調剤、午後は臨時薬の調剤を行います。

当調剤室では、薬剤の最大限の効果が発現される様、また安全にそして確実に服薬していただける様、さらに薬剤の安定性を考慮した調剤をしております。そのひとつの例に、定時薬の場合での当院独特の調剤システムである、一度に服用するものをすべてまとめてしまう「セット調剤」があります。例えば湿気や光を嫌う薬剤は包装（10錠単位のヒートシール）から出してしまいうことで薬剤の効果が減少してしまいますので包装から出してそれらを他のお薬と一緒に一包化にはできません。それらが処方されている場合、患者様は薬剤を組み合わせて服薬を行わなければなりませんから「飲み忘れ」のリスクは増えることになります。そこ

でそのリスクを増やさない様、又安定性が損なわれないように、一度に服薬する薬剤をすべてひとつにまとめて「大きな包装で分包が可能な機械」でセットを行っております。この様に患者様ごとにお薬の飲み方にあわせたセットを行ないますので当調剤室での業務量は非常に多くなります。

近年、多くの薬剤が開発されて医薬品の情報も膨大な量になっています。それに伴い服薬するうえで患者様自身も認識しておかなければいけない事柄も増えており、お薬を飲む行為だけでも複雑化しています。これらの情報を正しく、整理してわかりやすく提供することも我々の大切な仕事です。

最後に皆様はお薬を飲み忘れた時どうされていますか？ほとんどの患者様は気がついた時すぐに飲まれていると思います。しかし、薬剤により、また気が付いた時間によってもそれぞれ対処の方法は異なります。そのような場合どのように対処したらよいかぜひ確認しておきましょう。お薬のことで質問等があれば遠慮なくいつでもご相談下さい。（田崎政則）



検査あらがると

採血管シリーズ—③

今回は、紫キャップ・黒キャップ・青キャップの採血管で実施する検査についてお話しします。

血液は血管の外へ出ると固まること（凝固）によって出血を防ぐ働きがあります。採血すると同時に凝固が始まるので、それを止める薬（抗凝固剤）が入っているのが紫キャップと黒キャップの採血管です。血管の中を流れている状態で測定しなければならぬので、うまく凝固を止めることができなかった場合には再度採血をお願いすることもあります。紫キャップの採血管には、血液学検査（血液中の有形成分である白血球・赤血球・血小板の数や形態を観る）に適した白い顆粒状の抗凝固剤が入っています。

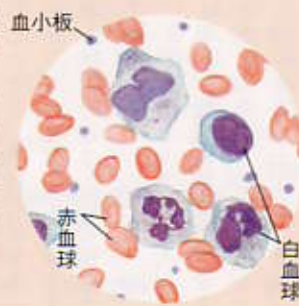
白血球は、細菌やウイルスなどから身体を守る生体防御作用があるため、感染や炎症などの判断のめやすになります。又、白血病などの血液の病気でも数や形態に変化が出ます。赤血球は、全身へ酸素を運ぶ大切な働きがあり、減少すれば酸欠状態をきたし様々な障害が出てきます。赤血球数、ヘモグロビン濃度などから貧血の有無をみます。

血小板は、血管が傷つくと真っ先に修復しようとして働き、少ないと出血しやすくなります。



血小板は、血管が傷つくと真っ先に修復しようとして働き、少ないと出血しやすくなります。

現在では自動血球計数器によって、わずか数分間で測定できます。太田西ノ内病院の地下検査室には一日250〜300件の紫キャップの採血管が集まり、二台の器械で測定しています。メインとなつて活躍している「ジェネス」を御紹介します。（左上写真）そして必要に応じて、一滴の血液をガラス板に薄く引き染色して白血球・赤血球・血小板の形態を観察します。下は顕微鏡で観る血球のイラストです。



黒キャップの採血管には、血液凝固検査（凝固の能力を調べる）に適した透明な液体の抗凝固剤が入っています。手術や検査の前に実施することがあり、合わせて耳朶を少し刺して血の止まり具合をみる出血時間を、検査担当者が直接患者さんの元へ出向いて実施することもあります。

青キャップの採血管は、血管内で凝固が起こっていないか、又、凝固した固まりを溶かす働きに異常がないかを調べるための採血管です。

採血時、少しずつ何本も採ることを不思議に思われるかもしれませんが、それぞれの用途に合わせた一定量の血液を入れるためのものです。採血からすぐに検査は始まっているのです。（五十嵐典子）

1丁室より コンピュータ基礎講座

コンピュータもここ数年の普及率の向上により、一家に一台となりつつあります。仕事はもとよりプライベートまでと言う方も少なくないと思います。そこで何らかの形でたずさわることの多くなったコンピュータについての基礎的なお話をしましょう。

■OSのこと

OSとはOperating Systemで基本ソフトのことを言います。たまたまMicrosoft Office2000やMicrosoft Office XPをOSと間違えている方がいるようですが名前が似ていますがこれはアプリケーションソフトですから間違えの無いように。

・DOS

・Windows 3.1

・Windows 95/98

・Windows Me

・Windows NT4.0

・Windows 2000 などがあります。

■ノートとデスクトップ、買うならどっち？

これに関しては、目的・スペース・費用を総合的に考えて慎重に購入するのが良いでしょう。

具体的にはまず持ち運びを行うかです、行うならノートで検討。次に購入した後にはパソコンを置いておく場所があるかですが、自分の部屋に余裕があり専用の机があると言う方ならデスクトップでもOKですが、自分の部屋に余裕がなく使用するときだけテーブルの上で使いた



いと考えているなら絶対にノートでしょう。最後に費用ですがノートはデスクトップに比べて価格が高く性能はやや落ちるような気がします。これは同じ性能のノートとデスクトップではデスクトップの方が計算や画面の表示が若干早いのです。以上のことを考慮して目的にあったパソコンを購入するのが良いでしょう。私個人としてはパソコンは高価なものですから費用重視で妥協するよりも、目的やスペースを重視した方が良いと思います。

■こんなメールには気を付けて

ここ数年インターネットの普及と共にメール人口も年々増加していますが、それに伴い悪質なコンピュータウイルスも増加しています。最近では有名な名前がついたものが出現しており、その添付ファイルを見ようとするとウイルスが活動し、パソコンが動かなくなってしまうのです。

予防策としては添付ファイルのあるメールで、差出人が不明なときや内容（メールの本文）があやしいときはむやみに添付ファイルを見ないことです。場合によっては差出人がメール友達であったとしても妙な添付ファイルがあるときは見ない方が安心です。友達からのモノだから安全と言うことはありません。ウイルスの中には感染したパソコンから勝手にアドレス帳を見てそのアドレスに感染メールを送信するウイルスもいるので、ご注意ください。特に「.vbs」と言ったものはウイルスの可能性が高いです。

（荒川幸徳）

彩食健美

甘夏のかんてん



【材料】〈6人分〉

甘夏	大2個
粉寒天	8g
水	200cc
グラニュー糖	100g
1人分	95kcal



【作り方】

- ①甘夏は縦半分に切る。皮は寒天を流すので包丁で切り込みを入れてから手で丁寧に中身を取り出す。果汁を250ml分を絞っておきます。
- ②なべに粉寒天と水を入れ、混ぜ溶かしてから中火にかける。粉寒天が完全に溶けたらグラニュー糖を加え、沸騰してから約1〜2分間煮詰める。
- ③火から下ろし、粗熱を取ってから甘夏果汁を加える。
- ④鍋ごと冷たい水につけてへらで混ぜ、へらが少し重く感じるようになったら甘夏の皮に流し入れる。
- ⑤冷蔵庫で冷やし固め、食べるときにくし形に切って器に盛る。

暑い夏には冷たいデザートがぴったりですがエネルギーが気になる方には寒天やゼリーがおすすめです。特に寒天はノンカロリーで、食物繊維が豊富に含まれるため満腹感が得られ、整腸作用もあるのがダイエットや健康食品として優れています。寒天の原料はテングサやオゴノリなどの海藻で、湿度の少ない場所に保管すれば約3年以上保存できます。使用するときには水でふやかしてから加熱し完全に溶かしてから型に流し固めます。固まり始める温度は30〜40℃なので室温でも固まり、溶けにくいという特徴があります。寒天には棒寒天・粉寒天・糸寒天がありますが棒寒天・粉寒天は菓子類に、糸寒天は水に戻すだけで使えるのでサラダ・酢の物の材料に使用するのも良いでしょう。

オープンシステム 情報ネットワーク

太田西ノ内病院では、患者さんに質の高い医療を受けていただくために開業医の先生方と連携をむすんでいます。ここでは太田西ノ内病院オープンシステムの登録医療機関、登録医師のご紹介をしていきます。



さとう耳鼻咽喉科クリニック



かとうの内科クリニック



清水医院



かとうの内科クリニック

所在地／〒963-4300 田村郡船引町錦柄138

電話／0247-81-1388

FAX／0247-81-1380

診療科／内科・循環器科・消化器科・小児科

休診日／日曜日・祝日・水曜日午後

診療時間／月・火・木・金

午前9:00～12:00

午後2:00～6:30

水曜日 午前9:00～12:00 午後休診

土曜日 午前9:00～12:00

午後1:00～4:00

病床数／無床

往診・訪問診療：あり



院長 上遠野 栄一

昭和55年 筑波大学医学専門学群卒業
昭和57年 福島医科大学第一内科入局
昭和63年 太田西ノ内病院循環器科勤務
平成12年5月 かとうの内科クリニック開業



上遠野先生（前列右端）とスタッフのみなさん

船引町に開業してまだ一年ですが、何年も経過したような気がするのには生まれ故郷のためでしょうか。開業後は太田西ノ内病院の諸先生はもちろん看護、検査、事務の方々に大変お世話になりました。紹介患者さんの数は一年間で130名ほどでしたが常にスムーズな対応と適切な御診療を頂きました。入院設備のない当クリニックには、たよりになる連携病院の存在と救急隊には感謝の気持ちで一杯です。診療で心がけているのは入院を要しない検査と治療はできるだけ自前で施行するという事です。やはり郡山までは交通手段や時間の制限で患者さんと家族の負担が大きくなりますので、この一年で印象深いのは在宅の患者さんで輸血を行ったことです。太田西ノ内病院の輸血管理室で適合試験をしてもらいクーラーボックスを背負ってバスと電車で帰り、その足で輸血をしました。クリニックでは輸血一つするにも大変なのだ改めて実感した次第です。小児から高齢の方の診療まで自分の時間と体力が許す限り頑張りたいと思っていますので今後もご支援をお願いいたします。

登録医から

『訂正とお詫び』

第3号6ページ「渡辺医院」の内容に誤りがありましたのでお詫びして訂正致します。正しくは、右記の内容になります。

医療法人 渡辺医院

所在地／〒963-0108 郡山市笹川2丁目203

電話／024-945-1477

FAX／024-945-5832

診療科／外科・胃腸科・内科・歯科

休診日／日曜・祝祭日

診療時間／月～金曜日：午前9時～12時

午後1時30分～6時

土曜日：午前9時～12時

午後1時30分～3時

病床数／10床

往診・訪問診療／あり

第3回 オープンシステム (開放型病院)勉強会

平成13年4月26日(木)郡山ビューホテル・アネックスにて、太田西ノ内病院の医師、登録医の先生方による勉強会が行われ、一般の方も多数参加されました。



「ファミリーハウス桔梗」のご案内

当院には、患者さんのご家族のための宿泊施設があります。入院・外来受診のために遠方よりいらっしゃるような場合などにご利用いただけます。病院の近隣(桜木地内)にあります。お気軽にご相談下さい。

窓口：庶務課または医療福祉相談室まで



データ

鈴木 公士 くん

●2001年6月22日
18時25分生まれ

●体重2725g

●父：鈴木道男さん

母：鈴木明子さん



公士くんとお母さん

- ①夫も立会いだったので喜びも倍増でした。
- ②公平でたくましい男の子になってほしい。
- ③元気で明るく、たくましく
- ④子供が将来、生まれてよかったと思えるような経験をさせてあげたい。

データ

山崎 明女 ちゃん

●2001年6月23日
17時43分生まれ

●体重3540g

●父：山崎信也さん

母：山崎富美江さん



明女ちゃんとお母さん

- ①あー、これで私の役目は終わった。(5人目の出産なので)
- ②文字通り。明るい女の子になってほしい。
- ③思いやりがあって、丈夫な健全な子。
- ④夫婦仲よく、楽しい家庭にしたいな。

★21世紀の申し子たち★

太田西ノ内病院で生まれた赤ちゃんを毎回紹介していきます。

質問

- ①生まれた時の感想
- ②名付けの理由
- ③子どもに願うこと
- ④両親の決意を一言

編集後記



暑い日が続く今日この頃、この時期は冷房の効いた部屋で過ごす事が多いと思います。冷房の効いた部屋は冬の暖房の効いた部屋に比べ換気をすることが少ないのではないのでしょうか。私はこの環境の中にいて、ある新聞に載っていた記事を思い出しました。

それは「受動喫煙」についてです。「受動喫煙」といえば流れてくる煙を指しますが、それ以上に喫煙後の部屋に漂う目に見えないタバコの粒子が危険だという事です。たばこの害については以前から知られているため、家庭ではベランダや戸外で吸う「ホタル族」が増えたそうだし、また公共施設などでも分煙があたりまえになりました。「ホタル族」については戸外ということで受動喫煙は問題になりませんが、分煙については完全な仕切りでない所例えばレストランや職場ではたばこの粒子が部屋全体に広がり、自然になくなるまでには数時間かかるという問題です。私も含め喫煙しない人には困った事です。喫煙後は必ず換気してほしいと思っています。

最近「健康ブーム」で特に食物について注目を集めています。環境についても少し考えてみましょう。(遠藤めぐみ)

太田西ノ内病院広報委員会

委員長 佐久間秀夫
委員 吉成 妙子・遠藤めぐみ
朝倉 俊成・後藤 桂子

松田美津子・荒川 幸徳
木原 均・久下 薫
佐藤 浩徳(幹事)